

1. 開催概要

展覧会名	オルセーのナビ派展	
開催施設名	会期	入場者数
三菱一号館美術館	2017年2月4日～2017年5月21日	99,911人
●開催概要 19世紀末のパリで、ゴッホに影響を受け、前衛的な活動を行った若き芸術家グループ「ナビ派」。本展は、20世紀美術を予兆する革新性で、近年世界的に評価が高まっている「ナビ派」の芸術を、日本で初めて本格的に紹介した。ナビ派研究の第一人者、ギ・コジュヴァル氏(オルセー美術館・オランジュリー美術館総裁、当時)総監修のもと、世界第一級のナビ派コレクションを誇るパリのオルセー美術館から、新規収蔵品も加えた81点が出展され、その全貌と魅力を明らかにした。 ナビ派の特徴である平面性や装飾性が、日本人の「かわいい」感覚に通じる部分もあり、若い女性を中心に約10万人もの来場者があった。来場者を対象としたアンケートでも、「今までナビ派を知らなかったが、とてもよかった」、「すてきな展示、ポスターのファンになった」等、新しい世界に触れた喜びの声が多く寄せられたほか、展覧会に対する満足度として「満足」「とても満足」と回答した人が93.8%にも上った。 また、本展を美術評論家・高階秀爾氏は「『『黄色いキリスト』のある自画像』が注目に値する」「総計80点あまりの作品が絵画世界の華やかさと奥深さを強く訴えてくる催しである」(2017年2月8日付、毎日新聞夕刊)と評したほか、朝日新聞でも「印象派などに比べて、ナビ派がグループとして脚光を浴びる機会は多くなく、主要画家の作品がまとめて見られる機会は貴重」(2017年3月7日)、産経新聞でも「多様な表現の魅力を堪能することができる」と好意的に紹介された。		

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

① 鑑賞機会の拡大・入場料の無料化

3月1日から15日までは大学生以下の観覧料を無料とし、多くの若年層に優れた美術鑑賞の機会を提供した。近隣エリアの出光美術館、三井記念美術館、東京ステーションギャラリーとも連携し「学生無料ウィーク」として広報を強化した効果もあり、計13日間で多数の学生が無料で鑑賞した。本取り組みは、東京新聞(2017年3月3日付)で「若者が審美眼養う機会」と紹介された。

② 教育普及活動

軽減された保険料を充当して、日仏の学術交流を深める機会を設けただけでなく、幅広い一般来場者層に対し、作品の理解を深める環境を整えることができた。

(1) シンポジウム

日時・場所:2017年2月4日 日仏会館ホール

内容:ナビ派研究者・本展監修者であるギ・コジュヴァル氏(オルセー美術館・オランジュリー美術館総裁)、イザベル・カーン氏(オルセー美術館主任学芸員)を基調講演者に迎え、小泉順也氏(一橋大学大学院准教授)、高橋明也(三菱一号館美術館館長)とともに、「ナビ派の再評価と新解釈」をテーマにディスカッションを行った。

参加者数:169人

※上記肩書はいずれも開催当時

(2) スクールプログラム

内容:小学生～高校生の学校団体を対象とした展覧会鑑賞プログラムを実施(学校による事前申込制)

(3) 家族プログラム

日時:2017年3月25日(土)、3月29日(水)いずれも9:00～10:30

(4) 内容:小学生とその家族を対象とした体験型の展覧会鑑賞プログラムを実施。見どころガイドジュニア版の作成・配布

内容:小中高生の鑑賞をサポートするガイドを作成し、会場とウェブ上で配布・掲載した。

(5) キャプション・パネル類、音声ガイドの英語版作成

(6) デジタル版展覧会図録の制作

③ 展示作品の質・量の充実

本制度適用により、ゴーガンの重要作品《「黄色いキリスト」のある自画像》などを含めることが可能になり、ナビ派をその源流を含め総合的に紹介することができた。

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

無

4. 安全配慮に関する特別の対応

作品所蔵者であるオルセー美術館、主催者、輸送業者らと十分に協議し、輸送、搬入、搬出時には警備員を特別に配置するなど万全の体制で輸送・展示作業にあたった。また、往復の各輸送便には、オルセー美術館のクーリエが随行し、日本側主催者が指名した修復保存の専門家とともに、貸与作品の開梱・展示・撤去にあたった。

展示時は各作品に盗難防止アラームを設置した。展示期間中も来館者数の増加にあわせて、スタッフ増員や結界の設置等、作品と来場者の安全を確保すべく臨機応変に対応した。

5. 紹介事例・今後の改善点等

ナビ派はこれまで日本では本格的に紹介されておらず、一般における認知度・人気度はまだあまり高くないと思われた。その中で、ナビ派に焦点を当てた展覧会を実現できたことは、本制度適用による経費の削減を見越すことができたからである。その意味で本展は「国民へ優れた美術品を鑑賞する機会を提供する」という制度趣旨に合致したものであり、また、大学生以下を対象とした無料鑑賞日の設定、各種教育普及プログラムの充実などにより、その機会を幅広い層に活用してもらうことができた。

また、学生の無料化については、近隣の美術館との連携が幅広い広報につながり、多くの学生による機会活用につながったと考えられる。

今後も本制度を活用しながら、今まであまり紹介されてこなかった芸術家たちにも焦点を当てる等、優れた芸術・文化を紹介するとともに、国際文化交流の推進に貢献したい。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

三菱一号館美術館、読売新聞社、オルセー美術館

●収入

区分	内 訳	決算額
	展覧会収入・その他の収入	11,459
	共催者負担	14,025
	収入総額	25,485

●支出

内 訳	決算額
企画準備等基本経費	16,074
設営・運営等会場関係費	9,411
支出総額	25,485